

ホクコーロングキック® 1キロ粒剤75

■種類名：クロメプロップ・フェントラザミド・ベンスルフロンメチル粒剤
 ■有効成分：クロメプロップ-----4.5%
 フェントラザミド-----3.0%
 ベンスルフロンメチル-----0.75%
 ■PRTR法指定物質：フェントラザミド [第1種] -----3.0%

■登録番号：第22246号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：2008.09.10
 ■性状：淡褐色細粒
 ■有効年限：4年
 ■包装：1kg x 12袋、4kg x 6袋
 10kg x 1袋

【特長】

- 水稻に対する安全性が高い、田植同時処理可能な一発処理除草剤。
- 3成分の働きにより、ノビエをはじめとする一年生雑草から多年生雑草まで幅広い雑草の発生を長期間抑制する。
- フェントラザミドとクロメプロップの相互作用で、SU抵抗性雑草に高い効果を発揮する。

【適用内容】(2014年10月末日現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ(東北) ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ(東北) クログワイ(東北) シズイ(東北)	移植時	砂壤土 ~ 埴土	1kg /10a	1回	田植同時散布機で 施用	北海道 東北
		移植直後~ ビエ2.5葉期 但し、 移植後30日まで				湛水散布	
直播水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ セリ	稲1葉期 ~ ビエ2.5葉期 但し、 収穫90日前まで	壤土 ~ 埴土				

クロメプロップを含む 農薬の総使用回数	フェントラザミドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数
2回以内	1回	2回以内

【効果・葉害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは2葉期まで、オモダカ、ウリカワ、クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、シズイは草丈3cmまでが本剤の散布適期である。
- オモダカ、クログワイ、シズイの防除は、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- 苗の植え付けが均一となるように代かきを丁寧に行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特に丁寧に行うこと。
- 散布に当たっては水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3~4日間は通常の湛水状態(水深3~5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。
- 以下のような条件下では葉害が発生する恐れがあるので使用をさけること。
 - ◆ 砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)
 - ◆ 軟弱な苗を移植した水田
 - ◆ 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避けること。
- 本剤を直播水稻で使用する場合、稲の根が露出する条件では、葉害を生ずるおそれがあるので注意すること。また、薬剤が過剰に局在した部分では、葉害を生ずることがあるので、散布ムラがないよう均一に散布すること。
- 散布後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育を阻害する恐れがあるので、これらの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意すること。

- 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないように注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 散布の際は農薬用マフ、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
散布後は水管理に注意すること。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。